

4

事業・活動のトピックス

(令和3年度)

●ファーマーズマーケットがオープン

令和4年1月に「金岡産直市」、「KAU〜ら」、「長泉産直市」、「すそのふれあい市」の4産直市はJA直営のファーマーズマーケットとしてリニューアルオープンしました。営業時間や営業日を拡大し、農畜産物の販売の機会を増やすとともに、店舗運営の強化を図り、農業所得向上へ繋がります。

また、安全・安心の地元農畜産物を提供する地産地消の拠点としての役割も、これまで以上に果たしていきます。



■新ふれあい市 店内の様子



■買い物の様子

●新JA発足に向け8JAが最終協議・決定

令和4年4月の富士伊豆農業協同組合発足に向け、静岡県東部地区8JAは、合併委員会等諸会議において協議を重ねてまいりました。広域化する管内において、各地区を代表する特産品に対する施策や、新たな営農指導体制等、農業振興の取り組みについて決定しました。

また、組合員の意思反映のしくみや組織機構にもとづく各業務についても整理しました。令和3年3月の臨時総代会での合併承認に続き、令和4年2月の臨時総代会では、令和4年度の事業計画が承認され、新役員が選任されました。



■臨時総代会の様子



■JAふじ伊豆の富士山ロゴ

●スマート農業の運用強化

農作業省力化の要望に応えるため、農業散布用ドローンを増設し2機体制にしました。また、ドローンの活用範囲の拡大を目指し、ジャンボタニシの一斉防除や、稲わら分解材の散布等を実施し、効果検証を行いました。沼津市とも連携し、ドローンを活用した鳥獣被害対策の実演講習を実施し、スマート農業の運用拡大に努めました。



■農業散布用ドローン

●農福連携の取り組みスタート

農業において労働力不足を抱える生産者と、社会参画に努める障がい者の共生を目指し、県の「農福連携ワンストップ窓口」と連携し、生産者と福祉事業所をマッチングさせる体制づくりをスタートしました。農業と福祉が互いに手を取り合う地域共生社会の実現に向け、取り組みを進めています。



■農作業の様子

●地元企業との連携した取り組み

地域に根差した相互の経営資源を活用しながら、農業の持続的な発展を目指す包括連携協定を、JAなんすん・JA三島函南・JA伊豆の国の3JAと、伊豆箱根鉄道で締結しました。この協定の取り組みとして、同鉄道三島駅で地元特産品のPRを共同で行いました。当日は各JA特産品の販売や、沿線農産物を描いた1日フリー乗車券の販売等が行われました。



■三島駅での販売の様子